

令和 7 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）事業実施計画書及び所要額内訳書

都道府県、市町村又は法人名
一般社団法人日本健康・栄養システム学会

1. 事業実施計画書

テーマ番号	50
-------	----

①事業名	嚥下機能に配慮した食事提供の評価に関する調査研究事業
②事業実施目的	<p>栄養ケア・マネジメント（以下「NCM」という。）のもとでさまざまな取り組みが行われている。平成27年度の介護報酬改定によりミールラウンド・カンファレンスが導入され、さらに令和3年度の介護報酬改定では管理栄養士の配置強化に伴い、週3回以上のミールラウンドが実施されるようになった。これにより、「嚥下機能に配慮した食事」の個別化が一層進んでいる。</p> <p>しかし、食事形態に関して推奨されている日本摂食機能リハビリテーション学会嚥下調整食（以下「学会分類」という。）の定着が必ずしも進んでいないことが、情報連携の障害となっている。また、食材費の高騰に伴い、多様化・個別化された食事の提供が給食業務従事者の業務負担を増加させている（市川ら、令和2年度厚生労働行政推進調査事業補助金）。さらに、介護保険施設の管理栄養士が最も困難に感じているのは、入所高齢者の食べる意欲の低下や食事拒否への対応である。そのため、入所高齢者が食事を「おいしい」と感じ、食べる意欲の回復につながる方策が求められている（本学会、令和6年度本補助金によるインタビュー調査）。</p> <p>これらの課題を解決し、効果的なNCMを実施するためには、適切なフードマネジメント（以下「FM」という。）が不可欠である。また、適切なFMによって提供される食事はNCMの効果を高めるという相互関係にある。</p> <p>本研究では、NCMの効果（おいしさ、食欲回復、食事量の改善・維持）、FMの適切性、情報連携の観点から「嚥下機能に配慮した食事」の提供方法を評価し、以下の小目標の達成を達成する。</p> <p>【達成する小目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「嚥下機能に配慮した食事」の提供に関するNCM及びFMを効果的・効率的に実施するための要因を①実態調査及び②介護保険情報分析を通じて検討する。 「嚥下機能に配慮した食事」を効果的・効率的に提供している介護保険施設のNCM及びFMの取り組みや工夫を③インタビュー調査を通じて把握し、それらが普及するための方策を検討する。 本研究に設置された検討委員会において、1.及び2.の検討結果に基づき、現状のFMにおける人手不足や食材料費の高騰といった課題等の状況を考慮しつつ、「嚥下機能に配慮した食事」の提供に関する評価手法を提案する。

<p>③事業概要</p>	<p>(1) 委員会の設置(別紙組織図参照のこと。)</p> <p>検討委員会は、三浦公嗣本学会代表理事を委員長、宇田淳本学会理事を副委員長とする有識者および実務者10名程度で構成し、WEB会議を4回程度開催する。また、検討委員会の下に3つの実施小委員会：①実態調査実施小委員会、②介護保険情報分析実施小委員会及び③インタビュー調査実施小委員会を設置する。各小委員会は、対面またはWEBにより4回程度の会議を開催する。検討委員会は、実施小委員会から進捗状況や分析結果を受け、課題を整理するとともに、各実施小委員会の調査結果を総合的に検討し、成果を取りまとめる。</p> <p>(2) 研究の内容(詳細は調査事業計画書(1)～(3)参照のこと。)</p> <p>① 実態調査</p> <p>実態調査実施小委員会【小委員長:市川陽子(静岡県立大学教授)】は、データの分析担当者、NCM及びFMに関する有識者及び実務者で構成する。全国の介護保険施設の管理栄養士を対象に、「嚥下機能に配慮した食事提供」に関するNCM及びFMの体制や取り組み、その適切性(効果・効率性等)、現状の工夫や課題について、無記名の調査票を用いてWEB調査を実施する。調査依頼一式の印刷・郵送、WEB化及びデータベース作成は外部に委託する。</p> <p>② 介護保険情報分析</p> <p>介護保険情報分析実施小委員会【小委員長:遠又靖丈(神奈川県立保険福祉大学准教授)】は、大規模データの分析経験のある研究者で構成する。本国庫補助事業(令和6年度)として本学会が実施したLIFEデータ等の介護保険関係データベースを分析し、全国の特養・老健における嚥下調整食の実態把握を把握する。また、施設特性や対象者特性を考慮した評価を行う。</p> <p>③ インタビュー調査</p> <p>インタビュー調査実施小委員会【小委員長:岡本節子(十文字学園女子大学教授)】は、インタビュー調査の経験を有する有識者および実務家で構成する。</p> <p>「嚥下機能に配慮した食事提供」において、効果的・効率的なNCMおよびFMの取り組みを実施し、協力が得られた介護保険施設10か所の管理栄養士を対象に、インタビュー・ガイドに基づくWEBインタビュー調査を実施する。インタビューの逐語録を基に、効果的・効率的な体制や取組に関する重要な要点、及び今後の報酬改定等において見直すべき課題を整理する。逐語録作成は外部に委託する。</p> <p>(3) 提案書の作成</p> <p>検討委員会では3つの小委員会の報告を基に、「嚥下機能に配慮した食事」の評価手法について提案書を作成する。</p>
--------------	---

⑤事業実施予定期間	令和7年 内示日 ~ 令和8年 3月31日
⑥事業実施予定場所	静岡県立大学、十文字学園女子大学、神奈川県立保健福祉大学、共立女子大学
⑦事業の効果及び活用方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険施設における「嚥下機能に配慮した食事提供の評価」に関して、NCM及びFMを効果的かつ効率的に推進するための手法を提案する。 2. NCM及びFMを適切に実施している介護保険施設における体制や取り組みの具体的なあり方を明示する。 3. 上記を通じて、今後の介護報酬改定等に関する検討に貢献する。 4. 本事業終了後、報告書および提案を本学会ウェブサイトで公表するとともに、関連団体と共同で研修会等を開催し、普及・啓発を促進する。
⑧事業担当者氏名	三浦公嗣
⑨経理担当者氏名	駒形公大

- (注) 1. 事業ごとに別葉とすること。
2. ②は、実施する事業の目的を詳細に記入すること。
3. ③は、実施する事業の具体的な計画（事業項目、客体、事業の実施方法等）を記入すること。なお、調査事業（事業の中でアンケート等の調査を行うもの）に関する事業の場合は、どのような趣旨、位置づけで行うかが分かるよう調査概要のみを本項目で記載し、調査の詳細については様式3-2別添「調査事業計画書」に記載して添付すること。また、事業の実施に当たって参考となる資料があれば添付すること。
4. ⑦は、実施する事業の効果と活用方法を具体的に記入すること。